

あなたも、今日から サポーター！

知的障害のある人たちもみなさんと同じように、自分の好きな場所で、自分の好きな人たちと、これからもずっと、いっしょに暮らしたいと願っています。

ここまでにお話ししてきたように、彼らの暮らしを支える教育や福祉の仕組みも、最近では充実してきており、*だんだん*と暮らしやすくなってきました。

でも、地域で暮らすというのは、私たちと同じように、あるいはそれ以上にいろいろなトラブルが起きてくるものです。それを見守り支援していくためには、実は教育や福祉の仕組みだけでは足りないのです。

▶▶ こんなサポーターがいてくれます

ここで皆さんにお願いがあります。彼らのサポーターになってください。親や教師や福祉関係者だけでなく、警察官の方、近所のおじさんや八百屋のおばさん、コンビニのお兄さん・お姉さん方、お医者さんたち、みなさんが街の中のサポーターになっていただけると、知的障害のある彼らが、とても暮らしやすくなります。

実は、「地域のサポーターになってください！」という活動は、これまでの5年間、全国各地で進められてきました。すでにいろいろな近所の方々がサポーターになってくださっています。ここではその例をご紹介します。

皆さんも自分の街のサポーター探しを進めてみてください。



コンビニや商店街の皆さんもサポーターに！

知的障害のある子どもたちや大人たちは、買い物が大好きです。近くのコンビニや商店街に、お菓子やジュースを買いによく出かけます。学校や家庭でも買い物学習をしていますので、お金の使い方も少しはわかっています。

でも、こんなトラブルもあります。こんなとき、コンビニや商店街のみなさんに、ちょっと声をかけていただくと、彼らはとても助かります。ぜひ、コンビニ・商店街サポーターになってください。

▶▶ お金を払わないで、ポテトチップを食べてしまった？

あきら君は小学校5年生。お母さんからお小遣いをもらっています。学校が終わったあと、いつものように大好きなコンビニにおやつポテトを買いに行きました。手にはお小遣いを握りしめて。

でも、コンビニでポテトを見たら、お腹がすいて、ついその場で袋をあけて食べてしまいました。驚いた店員さんは、無銭飲食か？ 警察に通報か？ と一瞬、考えました。

▶▶ いえいえ、彼は順番を間違えてしまったのです

けれど、店員さんは彼の顔を見て、いつものあきら君だと気がつき、声をかけてくれました。「あきらくん、お金を払ってから食べてね」「お金を払わないのは規則違反だよ」。あきら君はそう声をかけられて、はっと気がつき、レジに行って「ごめんなさい」と謝ってお金を払いました。

彼は無銭飲食をしようとしたのではありません。お金を払うことと食べることの順番を間違えてしまったのです。

▶▶こんなときには、協力サポーターやパンフを！

自閉症の子どもたちには、商品が並んでいるのが好きな子もいます。勝手に商品を並べ替えてしまったり、雑誌をずっと眺めていて、迷惑をかけることがあるかもしれません。こういうときは、やさしく注意してください。

その場で注意し、しかってもらうことで、彼らはまた街の中で暮らす学習を一つすることになるのです。









もし、言葉が通じないときには、近くの育成会まで声をかけてください。あるいは、コンビニパンフやコミュニケーションボードも参考にしてください。

こんな時は、どうしたらいい？

こんな場面をAに困ったら……

やさしいことばでゆっくりと 話しかけてください

文字・絵・図案り・コミュニケーションボードなどを使って対応してください。
がづてに押さえるのはお断りします。

1	<p style="font-size: x-small;">お店の前で 遊んでいるけれど……</p>  <p style="font-size: x-small;">乱雑にのりついたり物を壊したり</p>	→	<p style="font-size: x-small;">お困りの方の人は、 構わずに声をかけ、商品の並べ方、 ルールなどに ご注意がある人もいます。</p>  <p style="font-size: x-small;">「買物のお手伝い をお願いします」</p>
2	<p style="font-size: x-small;">レジでレジ係の まわりを遊んでいたり……</p>  <p style="font-size: x-small;">店内を飛び回ったり</p>	→	<p style="font-size: x-small;">やさしい言葉でゆっくりと 話しかけてください。 まわりに迷惑をかけるようなら、 手離れはじめて遠慮してください。</p>  <p style="font-size: x-small;">「レジで お話をください」</p>
3	<p style="font-size: x-small;">困っているかな？</p>  <p style="font-size: x-small;">キョロキョロしたり</p>	→	<p style="font-size: x-small;">もしかしらば声をかけましょう。 トイレを探しているのかもしれませんが、 どこかお困りなところがあるの かもしれません。やさしく声をかけてください。</p>  <p style="font-size: x-small;">「どこかお困りなところ ありませんか？」</p>
4	<p style="font-size: x-small;">お困りな場面……</p>  <p style="font-size: x-small;">袋を投げたり袋づくり</p>	→	<p style="font-size: x-small;">お困りな場面というご迷惑が わかるかもしれません。 お困りな場面を わかる方もお困りな場面 をこらえてお困りな場面</p>  <p style="font-size: x-small;">「お困りな場面は ありませんか？」</p>

声かけに反応しなかったり対応に困ったら、次ページをごらんください。

P & A - 大阪 作成

コンビニパンフは以下のホームページからもダウンロードできます。

<http://www.pa-kpro.com/honbu/project/conbini/conbini.html>

43

かかりつけ医がいますか？

みなさんは、風邪をひいたときなど、気軽に相談できるかかりつけ医が身近にいますか？

知的障害のある子どもたちや大人も風邪をひいたり、けがをしたりします。でも、「障害のある患者は診られない」と断られることも実は多いのです。

彼らは痛みをすぐに言葉にできないために、「盲腸だったのにいえず、生死にかかわるぐらいまで周りが気がつかなかった」ということもしばしば起きています。日ごろから健康について、相談できるかかりつけ医が身近にいてくれることがとても大事なのです。



▶▶地域の病院・医師会がサポーターに！

こういう実態を理解してくれる病院や医師会・歯科医師会が全国に少しずつ広がってきました。

「知的障害のある人のための医療」についてお医者さんたちが勉強会をしてくれたり、受け入れの医療態勢に工夫をしてくれている病院や医師会・歯科医師会などもあります。医者の方々はもちろん、看護師の方々、歯科衛生士の方々も熱心にかかわってくださっています。

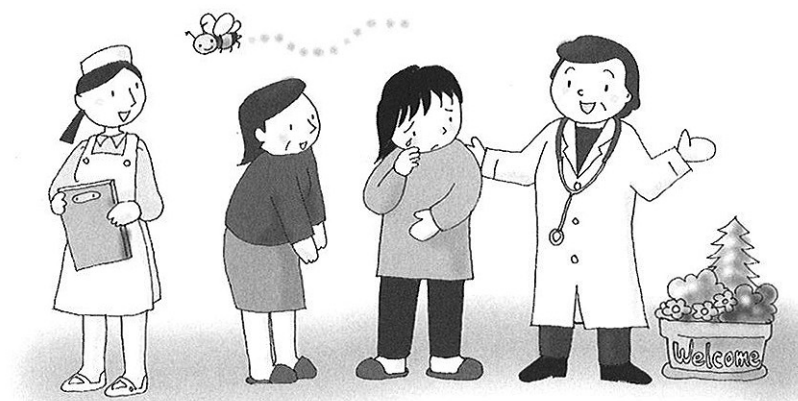
また、「自閉症児者を家族に持つ医師・歯科医師の会」(ADF)では、知的障害のある人や自閉症の人たちの診療のための絵カードなども開発しています。

彼らの健康があたりまえに守られるためにも、街の中のかかりつけ医の皆さんの協力がとても大事になってきます。

医療関係者の皆さん、ぜひサポーターになってください。

「自閉症児者を家族に持つ医師・歯科医師の会」(ADF)

<http://homepage3.nifty.com/afd/right.html>



消費者被害にあっていませんか？

最近、高齢者や障害のある人が、悪質商法の業者に狙われて、家や財産をだまし取られてしまう事件が起きています。

これは、高齢者や障害のある人に限らず、すべての人に共通した困ったトラブルでもあります。

では、こうした被害を防ぐためにはどうしたらいいのでしょうか？

私たちは、地域の消費生活相談員のみなさんにサポーターになってもらうことをまず考えました。

▶▶消費生活センターの相談員がサポーターに！

ある地域の親御さんたちは、地元にある消費生活センターをたずね、知的障害のある人と一緒に、被害にあわないためにどうしたらいいかというワークショップをしてもらえるようにお願いしました。

返事はもちろんOK！ です。相談員の方たちも、どうやって言葉のない方たちの被害を上手に聞きだせるものだろうかと、日ごろから工夫をしてくれていたからです。

各地でこのような「うまい話にご用心！ 断る勇気をもちましょう」などという消費者被害防止のワークショップが開かれています。知的障害のある本人はもちろん、親も福祉関係者も、一般市民の方も一緒に参加します。こういう機会を多くしながら、街全体で消費者被害をなくす取り組みをしていきませんか？



街の警察官もサポーターです

知的に障害のある淳さんの楽しみは、通勤途中にある家の犬を見ることでした。そんな淳さんが、ある日空き巣と間違えられて、警察に連れて行かれました。動転した淳さん、うまく警察官に伝えることができず、連絡を受けて駆けつけたお母さんと作業所の職員の説明で、やっと家に帰ることができました。ひどく傷ついた淳さんはそれ以降、唯一の楽しみだった犬を見ることをしなくなりました。

▶▶ どうして……。

淳さんのように、知的に障害のある人は、その特性やこだわりからくる言動のために、不審者や犯人に間違えられることがあります。逆に被害にあってもうまく気持ちや状況を説明することが苦手です。

質問の意味が理解できず、どんな質問に対しても同じ答えで「はい」といってしまう人も、実はたくさんいます。それでトラブルになることも少なくありません。

▶▶ どうすれば……。

たとえば、この警察官が、知的障害ある人のことを理解して対応してくれたら淳さんは、もう少しいいたいことがいえたくもありません。

そうなんです。街の警察官も大切なサポーターなんです。

実は、警察庁と全日本手をつなぐ育成会の権利擁護委員会は、5年前から『知的障害のある人を理解するために』というハンドブックを全国の警察署や交番に、2万6千部配布しました。現在では5万部あまりが全国に配られています。また、奈良県警や千葉県警、

茨城県警では、警察学校の講義の一つに取り入れてくれています。理解のある警察官が増えてきました。

たとえば最近、ある地域で、一般市民が知的障害のある人を不審者として通報したという事態がありました。ただ、このときは、警察官自らが『理解するために』のハンドブックを手にとって、一般市民の誤解を解いてくれたというのです。

▶▶みんなで支え合う安全な地域へ

一般の人と同じように、障害者も犯罪の被害にあっています。地域の警察官に障害の特性や個性を正しく理解してもらい、さらにそこにあなたの理解とやさしいまなざしが加われば、子どもや高齢者を含めた誰もが安心して暮らせる地域づくりにつながります。



子どもたち、よろしく！」キャラバン隊

知的障害のある彼ら・彼女らが、住み慣れた街で暮らし続けていくための一番の「期待のサポーター」は、だれかわかりますか？

そうなんです。彼らとともに成長していく街の子どもたちなんです。

知的障害のある子のお母さんたちは、我が子のとなりにいる小学生・中学生たちが、「さりげないサポーター」になってくれたらいいなと考えました。これが「お母さんたちのキャラバン隊」活動です。

▶▶お母さんたちから子どもたちへのメッセージ

ある小学校の6年1組と2組の4時間目。特別授業を組んでくれた校長先生や担任の先生の協力のもと、お母さんたちのキャラバン隊が始まりました。

「うちの知的障害のあるしげちゃんを理解してね」という1時間のプログラム。「しょうがってなんだろう」って詩の朗読のあとは、「言葉が通じないって、こんなに苦しいのよ」ってピカチュー王国ロールプレイ。担任の先生が人身御供になってくれて、子どもたちはわいのわいのでにぎやかに模擬体験。そして、最後には、お母さんが「障害があっても、家族の大切な宝なの」としっとりと語りかけると、同じ目線で聞いていた子どもたち一人ひとりの目に、大粒の涙が……。

子どもたちが、本質をわかってくれたなあ、という瞬間。

一番身近な、そして未来のサポーターがここに誕生！ です。

▶▶ 皆さんも、ぜひキャラバン隊に挑戦してみてください

キャラバン隊のプログラムをつくった「神奈川県座間市手をつなぐ育成会地域啓発部キャラバン隊」の皆さんは、去年は20回を超えるキャラバンをしたそうです。

地元小学校をはじめ、県立高校、大学などでも。理解のある教育委員会の方々が「ぜひ、地域の学校でやってほしい」と申し出てくださったこともあるそうです。

みなさんの地域でも、ぜひキャラバン隊を呼びませんか？ あるいは、皆さん自身がキャラバン隊になりませんか？ キャラバン隊の実際がビデオになっています。これを元に、地元にあった内容にアレンジすることもできます。これまでに各地のお母さんたちが、取り組み始めています。

座間市手をつなぐ育成会地域啓発部 キャラバン隊

<http://www.npo-zamaikuseikai.net/caravan/index.htm>



ぼっぼやパンつを知っていますか？

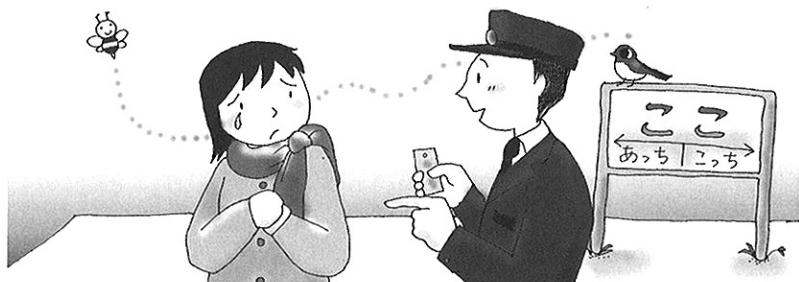
知的障害のある彼らは、学校に行くときに、仕事に行くときに、あるいは休みの日の外出に、バスや電車、タクシーをよく使います。

切符の買い方や乗り換え方も、ある程度わかっている彼らですが、事故などで電車が遅れたり、発車のホームが変わったりなど、いつもと違う状況になると、ときには戸惑ってしまうことがあります。

たとえば、こういう状況を見かけたことはありますか？ どう対応すればいいかわかりますか？

- Q 1. 乗り換えの切符の買い方がわからない千里君は、券売機の前でずっと立っていました。そのうち、千里君の後ろには人の列ができはじめました。ますます千里君は困ってしまいました。どうしましょう？
- Q 2. 乗車証の提示なしに改札を通り抜けようとしたようです。
- Q 3. 駅のホームの端をなにか独り言をいいながらウロウロしていますが……。

ほかにも、あれっと思うことがあるかもしれません。このままだと困った行動になりそうですが、実は各地で、駅員さんや運転手さんにたくさん助けられているのです。交通従事者のみなさんが、彼らの行動をよく理解し、親切で適切な対応をしてくれるので、トラブルにならずにすんでいます。



▶▶ そうなんです、交通従事者の皆さんがサポーターなんです

左ページのQへの答えは「ぼっぼやパンフ」にたくさん紹介されています。



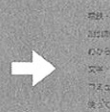






交通機関で働く方々に知的障害のある人を理解してもらうためにも、ぜひ「ぼっぼやパンフ」を届けたいと思います。以下のホームページからもダウンロードできます。ぜひご覧ください。

<http://www.pa-kpro.com/honbu/project/koutsu/koutsu.html>

こんなとき、
どうしたらいい？

こんなお客さんに出会ったら・・・

やさしいことばで、
ゆっくりと話しかけてください。
周りを困らせようとしているわけではありません。
何か不安なことやわからないことがあるのかもしれない。

<p>改札機辺で・・・</p>  <p>改札機がつかないから困る</p>	<p>→</p>  <p>改札機がつかない場合は、係員に助けを求めましょう。</p>	<p>→</p>  <p>ゆっくりと話しかけてください。周りを困らせようとしているわけではありません。何か不安なことやわからないことがあるのかもしれない。</p>	<p>【ぼっぼやパンフ】 【ぼっぼやQ&A】 【ぼっぼやパンフ】</p>
<p>ホームや、待合所辺で・・・</p>  <p>列車が来ないから困る</p>	<p>→</p>  <p>列車が来ない場合は、係員に助けを求めましょう。</p>	<p>→</p>  <p>ゆっくりと話しかけてください。周りを困らせようとしているわけではありません。何か不安なことやわからないことがあるのかもしれない。</p>	<p>【ぼっぼやパンフ】 【ぼっぼやQ&A】 【ぼっぼやパンフ】</p>
<p>電車やバスの車内で・・・</p>  <p>乗客が乗らないから困る</p>	<p>→</p>  <p>乗客が乗らない場合は、係員に助けを求めましょう。</p>	<p>→</p>  <p>ゆっくりと話しかけてください。周りを困らせようとしているわけではありません。何か不安なことやわからないことがあるのかもしれない。</p>	<p>【ぼっぼやパンフ】 【ぼっぼやQ&A】 【ぼっぼやパンフ】</p>

P & A - 大阪 作成

注) コンビニパンフ・ぼっぼやパンフ、ぼっぼやQ & Aなどをご希望の方は住所、氏名、郵便番号、電話番号、及び、希望の冊子名、希望冊数を明記の上白梅学園短期大学堀江研究室あてに、メールまたはFaxでお申し込みください。実費でお分けします。(要送料負担)

送付先 Eメール mayumi@shiraume.ac.jp Fax 042(346)5644

そして、ご近所プロジェクト

いかがでしょうか。これまでに全国で進められてきた活動を紹介してきました。どれも先駆的实践例があり、すでにたくさんの「街の中のサポーターさん」に協力いただいています。

交番の警察官、コンビニの店員さん、駅員さん、バスの運転手さん、消防・救急士さん、かかりつけ医さん、ほかに、民生委員の皆さんや町内会の皆さんも、です。ここでは、サポーターという名前で紹介してきましたが、本当は「あたりまえのお隣さん」でいいのかもしれないですね。地域にお隣さんができたら、それこそがご近所プロジェクトになるのかもしれない。

▶▶パンフやハンドブックを活用ください

ぜひ、皆さんの地域でも「サポーター」や「お隣さん」活動をしてみませんか。

少しずつではありますが、確実に地域は変わります。地域の掘り起こしをぜひしていきましょう。





●企画・編集委員（敬称略・順不同）

- 堀 江 まゆみ（白梅学園短期大学）
深 井 敏 行（府中朝日養護学校）
金 子 陽 子（関東医療少年院）
春 口 明 朗（明治大学）
大 沼 健 司（七生養護学校）
小笠原 まち子（青鳥養護学校）
市 村 たづ子（南大沢学園養護学校）
原 智 彦（あきる野学園養護学校）
平 井 威（七生養護学校）

あなたも 今日から サポーター

～ 知ってほしい！ 知的障害 ～

発行日 2005年12月1日
発行人 藤原 治
編 集 企画・編集委員会
発 行 社会福祉法人 全日本手をつなぐ育成会
〒105-0003 東京都港区西新橋2-16-1 全国たばこセンタービル8F
TEL 03(3431)0668 Fax 03(3578)6935
Eメールアドレス ikuseikai@pop06.odn.ne.jp
ホームページ URL <http://www1.odn.ne.jp/ikuseikai>
表紙・本文デザイン、イラスト 武井陽子



全日本手をつなぐ育成会